

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800283		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ東		
所在地	神戸市垂水区美山台2丁目8番2号		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成29年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美山台という高台に位置し、菅の池のほとりに面して建てており、池の木々からうぐいすの鳴き声が聞こえるので、自然を感じながら暮らせる場所です。また、事業所の周りには閑静な住宅街が広がり、美山台の自治会への参加もさせて頂いている。ご入居者様も地元の方がご入居いただけている。1Fのご入居者様は、グループホームでの生活に慣れ、本人様のペースが出来ているが、2階は平成28年5月15日以降のご入居者様であり、生活環境を作って、慣れて頂けるよう職員が一丸となって取り組んでいます。チームワークはよく、支えあえる環境があると感じています。また、社内研修も研修部会を中心に始動し始めており、職員が学びたいことをテーマに実践している。各部会や、行事、外出等職員が入居者様のご要望を聞きながら、企画、実施していくところです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念は「笑顔で接し、馴染みの関係を構築し、地域や家族と共に支え合う生活を」であり、入居者は職員の支援を受けながら、その人らしい暮らしを続けている。職員は、本人の希望に柔軟に対応できるよう、情報を共有化する等の工夫を行っている。月に1回は娘の家へ食事に行く、須磨寺にお参りしたい、魚の棚に行きたいといった入居者の思いに寄り添い、実現を支援する。月2回は食事とおやつを皆で手づくりしたり、誕生会にはケーキづくりを楽しみ、皆でお祝いする。お月見、敬老会、クリスマス会等の季節行事も楽しむ。皆でグリコピアやルミネナリエに出掛け、ついでに外食を楽しむ。事業所は新興住宅地にあり、地域住民は協力的で、自治会に加入し地域の情報は回覧板によって得ることもできる。行事には入居者と共に参加する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ東

評価機関: 特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	者	第三	項目	外部評価		
				自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念とは別に、地域に密着した介護サービスの運営方針を作成した際に、職員から公募した、たるみ東の共通理念がある。」「	事業所理念は「笑顔で接し、馴染みの関係を構築し、地域や家族と共に支え合う生活を」である。①気が付けばここに笑顔がある。そんな安心できる場所を目指します。②自分らしさをいつまでも。まんてんスマイルいつまでも。を掲げて取り組んでいる。	理念は、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示したものです。取り組み効果を上げるため、掲げた目標を仲立ちとして、事業所理念が介護の場での実践に結び付いているのか、一人一人の職員が確認してみたいかがでしょうか。
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美山台の自治会へ参加させて頂き、地域の回覧板も届けて頂けるようになった。運営推進会議に自治会長、地域住民代表として美山台の役員が参加されている。	事業所は自治会員で会費を納付している。回覧板も回ってくる。総会で、事業所の概要を紹介した。夏の自治会行事にも入居者と共に参加した。広く近所との付き合いができるよう、回覧板を利用者と共に次に回し、また看護学生のボランティアを受入れた。	地域住民の好意的な受け入れ姿勢に応じて、単発の行事や季節の催し等の関わりだけではなく、普段の暮らしの中で近隣の人達が立ち寄りたり遊びに来たりする間柄ができるよう期待します。
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターさんと連携し、運営推進会議の場で認知症の対応等の話す機会があり、包括の役割などを説明して頂けた。		
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を通じてサービスの内容を報告、話し合いの場として活かした取り組みを行っている。	入居者及び複数名の家族、自治会長及び自治会地区役員、地域包括支援センター職員、知見者の在宅介護支援センター職員等がメンバーであり、運営活動状況を報告し、意見・要望を聞くほか、広く情報交換を行い運営に役立てている。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本社の品質向上専門部署が窓口となり、市町村への対応や、市町村との交流を行い、情報共有を行っている。各事業所へ必要な内容は発信し、積極的に関係を築いてくれる。	事故報告等の場合を除き、市との直接のやり取りは、本社が行うことになっている。運営推進会議事録も本社を経由して、提出している。市から事業者への発信情報も本社経由で受け取っており、特に問題は生じていない。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については会社の方針であるが、いつでも出たい時に開錠できるよう職員へ指導しており、身体拘束をしないケアを基本に取り組んでいる。また、職員がいつでも見られるように身体拘束、虐待防止のテキストを設置している	年間研修予定に従って研修を行い、全職員に身体拘束の内容と、その弊害の理解を促す。また身体拘束防止のテキストを職員が何時でも読めるよう、休憩室に置いている。今年度は、アンガーマネージメントを学び、グループ討議でケアの現場を見直し、気づきを促す。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止、身体拘束の研修に関しては、職員入社時と現場では年に1回以上とし、全職員を対象に実施している。たもみ東は27年に1度実施しており、平成28年も実施し、平成29年度も予定している。	人権擁護及び高齢者虐待防止に係る研修は入社時に十分行われるが、その後も全職員が1年に1回以上、研修を受けなければならない。事業所では、管理者が研修を行い、危機管理部会が、高齢者虐待をしない、させない、見過ごさない取り組みを行っている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を今年度研修計画に設けている。また、事務所の職員が見やすい場所に、権利擁護の資料を置き、いつでも見れるようにしている。	年間研修予定に具体的な研修計画を織り込んでおり、権利擁護に関するテキストを休憩室に置いている。入居者に被保佐人が2人、こうべ安心サポートセンターの日常的金銭管理サービスを受ける生活保護受給者が3人おり、制度を学び必要な支援を行っている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足にならない様、事前に理解、納得を図るようアプローチしている。重要事項説明時に質問やご意見を聞くようにも心がけている。	管理者が重要事項説明書、利用契約書等を丁寧に説明し、重度化した場合の対応に係る指針への同意書を受領する。協力医療機関や訪問看護との連携、かかりつけ医の受診支援並びに施設の利用料金については、納得のいくまで説明する。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成の際にご意見、ご要望をお聞きし、反映させて頂いている。運営推進会議でも、頂いた貴重なご意見を基に、職員に投げかけ、反映している。	家族の訪問があり、話を聞くときには、計画作成担当者が同席する。運営推進会議の案内状には返信用葉書を同封し、欠席の場合には意見等を記載してもらう。運営推進会議に出た意見等は速やかに検討し、次回には報告できるように対応している。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の時間を設け、困っていることや、悩み、などと一緒に、運営に関してのさまざまな意見を聞くようにしている。また、良い提案があれば即座に実行している。例：シフト時間の変更等。	職員の意見等は、管理者に集まってくる仕組みになっている。毎月1回、職員との面談も管理者が行う。他の職員の理解が得られる提案は、直ちに実施する。職員の意見で、遅出の勤務時間帯を30分繰り上げた。園芸部会、ダイエット部会を立ち上げた。(
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が「楽しく働ける環境」である事を基本とし、やりがいを見つけられるよう、意欲向上に繋がるよう努めている。人事評価制度によって向上できる仕組みを作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を適宜受けてもらい、また、外部研修参加の取り組みも行っている。ようやく1年がたつ中、研修部会を設置し事業所内研修の機会をもっと増やしていきたい。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まんてん堂内の研修に参加し、他事業所と交流が図れる場はあるが、社外の同業者との交流は、今後の課題であるが、垂水地域の連絡会では交流の場を設ける議題が上がっている。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、顔なじみになるような努力はしている。また、本人が困っている事、要望を聞きだすような配慮はしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活にはご家族の協力が欠かせない事を伝え極力 ご参加いただけるような関わりを持つ働きかけをし、相談しやすい状況を作り、事前の面談外にも問い合わせしてもらえるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、今、何が必要であるかを見極めたサービスを行うよう考え、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員という概念だけでなく、「一緒に暮らす」ことを念頭に関係を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご報告、ご相談を基本とし、本人を取り巻く関係にあるご家族とは良い関係を築き、些細な事でも一緒になって支援していただける様、写真を送って生活の様子を伝えるなど取り組んでいる。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、お店に積極的に出向き、ご本人様の思い出を大切にさせて頂き、良い関係を継続出来る様支援している。	風呂等で入居者と二人の時に出来る話は傾聴し、思い出、大切な人、場所等を把握する。必要に応じて、職員が自由に読み、書きできるノートに記載して共有化する。月1回娘の家へ食事に行く、須磨寺にお参りしたい、魚の棚に行きたい等の入居者の支援をする。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はまだ、1年であるが、仲良しの方もでき、職員と一緒に関わらなくても楽しく暮らす関係にはなっている。また、独りを好む方へも職員が配慮し、声掛けを行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された娘さまが、思い出の場所として遊びに来たいと仰って下さった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者は本人である事を常に考え、ご希望や、想いの把握に努めている。計画作成担当者も含め職員全員が把握するように努めている。また、お聞きする姿勢を持っている。	入居者専用ノートに職員が聞き取った事や気づきを記入し、全員で共有している。対応はユニットリーダーの判断に委ねている。リビングでの食事が進まない入居者に居室で職員が話をしながら食事をする事で摂取量が増え思いも把握できた。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	GHご入居前の生活環境を把握し、サービスに繋げ暮らしを楽しめるよう努めている。(入居前情報とアセスメント内に組み込まれている)		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1Fのご入居者様はご自身で居場所を考え、過ごし方などは把握できるようになってきたが、2Fの方は、日課や、役割りを見つけた所で、現在継続中です。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思、思いを常に理解し、望む暮らしを提供出来る様話し合い、計画に反映している。	入居前のアセスメント表と入居後1か月間の当面の介護計画を経て正式の介護計画を作成する。3か月から6か月に1度、或いは状態が変わればその都度見直しをしている。月2回カンファレンスとモニタリングを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や個別記録を作成すること、申し送る時間を必ずとり、情報の共有を行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしさを追求し既存のサービスにとらわれない多機能化に取り組む姿勢があり、訪問理容以外で、希望された場合も近くの美容院へ行かれる等柔軟に対応している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療面で、訪問医の指示も受けながら、地域の専門医療機関に受診対応している。また、近隣小学校の祭り等、社協と連携し参加させて貰えた。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を行い、食事が取りにくくなった方に、歯科衛生士等の協力を仰ぎ、口腔内の状態、嚥下機能等の指導を受け、食事が出来るようになった方もいる。	協力医、かかりつけ医、歯科衛生士を伴った歯科医が定期的に往診をしている。皮膚科への通院には、家族同伴の時にも極力同行し医師の説明を聞く事になっている。検査や入院時は、協力医から病院へ紹介状が発行されスムーズにできている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師さんに相談を持ちかけ、身体や脳の仕組みを教わったり、病気に対してのアドバイスをいつも受けている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、管理者、ケアマネ以外にもお見舞いに行ったり、病院関係者から、ご家族からの説明と一緒に受けたり、今後について相談したりしている。	去年入居者が入院をした際には、管理者が様子を見に行き看護師に容態を確認し、情報交換を行った。退院時には病院から看護サマリー、協力医から医療サマリーを受けた。退院時は立てなくなっていた入居者が、帰ってからは歩けるようになった。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に、看取りの指針に対し、ご説明させて頂いている。現状、看取りの実例はない。	重度化や看取りはまだ経験していないが、去年1名の入居者の容態が急変した際には、職員が関係先に連絡を取り、医師と家族が最期を見守った。これを受け事業所でデスカンファレンスを行った。近く、看護師による看取り研修を行う予定である。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師士のアドバイスや、的確な指示のもと、実践している。社内研修では、まだ行っていない。これからの課題である。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。1回は昼間想定、1回は夜間想定で、垂水消防署の立会いで行った。また、火災以外の災害時は、避難場所への距離、時間を考慮し、事業所で待機することも話し合えた。	年2回消防訓練を行っている。11月に消防署立ち合いで、夜間設定の避難訓練を行った。2階出火の想定で夜勤者1人が2階の入居者を室内階段で1階に避難させた。1階が火元の場合は1階の入居者を外に、2階の入居者をベランダに避難させる事を確認した。	次回の訓練時には、是非近隣住民にも声をかけ参加していただく事を期待します。地元の消防団や運営推進会議に出席されている方、回覧板を渡す住民に声をかけ頼んでみてはいかがでしょうか。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様を「人生の大先輩」であることを常に考え、尊厳保って頂けるような関わり方をさせて頂いている。排泄時の声掛けや、羞恥心への配慮は実施している。	職員主導ではなく入居者の意思を尊重する事を心がけている。入浴しましょうかではなく、準備できますがいかがでしょうかと声掛けすることになっている。失禁での衣服交換は、立ち上がった時等に一緒に廊下を歩き、汗をかいたようですねと言って居室で行っている。	入居者1名がインフルエンザに罹り、2次感染が広がってしまった事を踏まえ、その原因や対応策について職員間で真剣に話し合い、マニュアル化等を検討されてはいかがでしょうか。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の気持ちを押し付けないよう、常にご入居者様にどうしたいかをお聞きするようにしている。また、話しかけやすい環境を常に考え、自己決定して頂けるように声掛けを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントを知り、その瞬間によってしたい事や過ごし方が一人ひとり違う為、都度お聞きし、臨機応変な対応をしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに、その日の気分などがあるので、ご本人にお聞きし選んで頂いている。おしゃれに興味がある方は、マニキュアなども用意し、楽しまれている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様と職員と一緒に食事準備や後片付けをし、共に1つの作業を出来るようにしている。家事の得意な方に合った役割りをさせて頂いている。日課で食事メニューを記入される方もおられる。	月2回食事レクリエーションがあり、職員の支援で食材の買物や調理を分担して皆で楽しんでいる。誕生会には、スポンジケーキの台にクリームとフルーツをトッピングしてケーキ造りを楽しみ、皆でお祝いをしている。外出した際にランチを楽しむ入居者もいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量などでもできる限りの記録を行い把握している。また、日常でも、時間を関係なく水分の提供はしている。その際にご希望を聞き、種類、用途、飲み易さなど考え提供している。水分摂取困難な場合、ケアプランに入れ職員間で観察している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には皆さんに口腔ケアと、必要な方には、1週間に1度の歯科衛生士のチェックを実施している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排泄自立を目指せるように回数や量、時間帯の情報収集を行い、医師に相談し、処方してくれている。適切なオムツ類の検討をし、工夫している。ご本人の意に沿った支援を行っている。	自立に向けた支援を行う。自立の可能性がある入居者にはリハビリパンツから布パンツとパットに変更して様子を見ている。排便困難な入居者には、医師や訪問看護師の指導で投薬やマッサージ、ホットパック等による排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医療機関や、訪問看護との連携の上で取り組んでいます。薬だけに頼らず、食品から便通を良くするように働きかけ、ねじり運動や、ホットパック、腹部マッサージ等も合わせて行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2日に1度の入浴を支援させて頂くが、ご本人様の要望、タイミングにて行っている。	冬場でも2日に1回の入浴を行っている。毎日声を掛け、希望する入居者には毎日でも軽く浅めに入浴してもらっている。入浴のない時でも足に浮腫がある人には、足浴を行ってマッサージをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況に合わせて就寝されている。22時頃まで歌番組を見てから休まれる方もいる。起床時間も一律ではない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の服薬に関して一人一人の用法、声掛けのタイミング、など理解している。また、医療機関や、薬局とも随時話し合い、薬情ファイルですぐに調べられる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちぎり絵で作品を一緒に作ったり、畑や花を植えて育てたり、役割りを持って達成感や充実感を得て頂ける様にしている。毎日の食事メニュー書きをんっかにされている方もいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は多く持っている。散歩、買い物、喫茶店、遠出外出等実施。暖かい日はテラス(バルコニー)でお茶等、外の空気が吸える機会を日々考えている。	近隣の池の周辺や公園の散歩やドライブに日常的に出かけている。服や食材の買物に近所のスーパーにも出かけている。舞子プロムナードやルミナリエも楽しんだ。園芸クラブを作って土いじりを楽しんだりテラスでお茶を飲んだりしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって金銭をもっている事が安心に繋がる方は持って頂いています。隣のヤクルトさんでヤクルトを購入される方もいる。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロア内の電話をいつでも使って頂いてます。また、携帯電話を持っている方もおられる。昨年、年賀状を送られた方は新年の挨拶を欠かさない方であった。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を持って頂けるような置物、飾りをしている。また、各フロアには季節のレクで作った作品等を掲示。快適な空調温度を都度お聞きしたり、椅子の下の足置きを置くなど、居心地の工夫をしている。ソファも適切な物に変えた。	冬でも寒くならないように配慮して天窓と非常口を1日1回開け、換気をしている。加湿空気清浄機を備え付け温湿度管理を行っている。立ち上がり易いソファを備え、椅子の下に足置きを置く等の工夫をしている。トイレや浴室は広くてゆったりしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル以外にソファも用意し、空間をうまく活用し折り畳みテーブルで食事される方もいらっしゃる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、小物、使い慣れたものなどを持ってきて頂き、居室作りをされている。また、ご自身で作られた居室環境は壊さず、整理整頓を一緒にさせて頂いている。	居室の入り口に入居者が好きな花等の飾りつけをして居室を間違えないよう工夫をしている。使い慣れた家具や好きな雑誌などを持ち込んでいる。毎朝、居室の換気を行う。1週間に1度のシーツ交換時に掃除機をかけ布団乾燥機で布団を乾燥している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かした関わり方を提供している。ご自分でできる事を奪わないことを基本としている。		